

高西宮

同志会報

第10号

1993年6月1日発行



祝創立三十周年

同志会会長　山内　進

「同志会員の皆様方には益々お元気で」
活躍の「よりお慶び申上わま。

今年も「余報」第10号を皆様にお届けで
めいじにならました。これもひとえに会
員各位の理解と多大なご支援、協力の賜
物と深く感謝致しております。

当時校も卒業生一万一千人といい大世帯
になつてきたり、余報の発行費が百円
を超える様になりました。毎年の同志会余
費の半分強を山内様になり、出来れば出

立招集の様な形で毎年向ひか発行しておござ
りたゞし考えておつあひので、会員の皆様
方にぞ、今後もよりいよいよ協力の程をお願
い申上わま。

されど、やがてより予想の「より思いま
すが、田校は昭和三十九年四月一高高校四
分校として開校されて以来、今年度で創立
三十周年を迎える事となりました。この三
十周年に当る様々な事業が創立三十周年記

念事業実行委員会の基に準備が進められて
おります。具体的には記念式典・記念公
演・記念誌の発行・西校中庭の環境整備・
そして同志会組合の事業として同志会余報等
の発行並びに中庭の整備の一環として記念
碑の設立を企画ししならま。ちなみに
の記念碑の設立は「西高」ノメンの制作
を、我々同志会の中間である、西高卒業生
の眞下賀一さんにお頼み、現在校内製作
中で、六月末には完成の予定になつております
ので、会員の皆様方にも是非共、なつ
かしの田校へ、制作風景を見学かてのお出
掛け頂けたと考えておひあす。以上同志
会余報の発行と石碑モニコメツの制作に
關してのお願いが皆様のお手許に届いて
ゐかと存じますが、よりいよいよ協力の程を
お願い申上わます。そして本年度西校
創立三十周年の節目の年にして、例年同志
会総会の余場を一高の真清田社参集殿か

の西校園のビルシノホテルに場所を移して
開催かてお定ひいたれこます。
詳細は余報の「余報のお知らせ」を御覧
いただきたいと思ひますが、当団には昔なつ
かしいお顔の諸先生方、又現職員の校長先
生初め諸先生方が多数参加されおるので、
是非お立ちそとのお中間同志連れだつて、
参加していただき、創立三十周年の同志会
総会を大いに盛り上げて、これから西校
は非共だくものにてござつたいたい、
同志会をますます盛大なものにしてください
多數の「」参加をお待ちいたしてあります。
最後になつたが、田校の益々の発展
と同志会余報の皆様方の「」健勝ひ活躍を
祈り申上わ、お援護とぞだしま。

創立30周年記念同志会 のお知らせ

●日時　8月22日(日) 午後4時半より

●場所　名古屋シティンホテル金扇の間

●会費　1万円(学生は五千円)

30名～50名の参加を予定してます。
どなたもお気軽にお越し下さい。なつかしい
時を語り合いましょう。

私の西高・30周年に寄りす

西高の「田中」

日本松 素 先生

一十年お世話になつた西校を最後に定年退職しました。私は西高の眞の命はやの「田中」にあれども思つておむ。

田中とは昔から押しつけられたのではなく、血の意志で、自分の心からわきあがる思ひで、自分の責任と生れいだ事事を言つたのだと思つます。だから樂ではありますまい。大変なことがあります。教師といつても生徒

ひとつでも厳しく扱つてゐる。「田中尊重」「自主性尊重」。書の字彙の扱いは非常に困難な事ですが、それを、やの困難を大事にしてきたのが西校だったといふ感じですか。まだ、西校並び校則のやるやかな高校時代とは知りません。

「信頼関係」です。教師・生徒ともにお互いを信頼し、尊重していなければなりません。西校は保たれてきたのです。この素晴らしい校風がつまつとつめじめ続いたと願つて止みません。

在校中はこれまでにないを聞こえました。「掃除をやれば大學に受かる」「青春は「もやもや」でさえあればいい」「アシヤ許せりが「スイ奴は許せり」「初めはお願いします」清々だら「何の難いが」わざわざ」「お決まり」と云つて、誰かがかり言つてた私は素晴らし

「生徒諸君に支えられてきました。素晴らしい先生方に教えて戴きました。」

まだまだやう残した事が一杯で思ひは残りますが、「の素晴らしさで西校で務められた事を感謝しています。何の難いが」と云つました。

(昭和44年から24年間教鞭をひいていただき、「の春」退職しなれました。)

ねつがといつゝ」がこもつた
中村義人 先生
十年間の西高での生活でした。十年前西校でやつて最初の担任は一年生。黒板の前に立つて話しを始め時の緊張と練められたるよくな闘の高鳴りを今まで思つてます。「今度来ターハ、ソント奴ヤー」いよいよ見ゆ田中いう田が厳しく挑戦的だった(田中見ゆタク)つか。あの頃の三年生「カシタナ」

新設校で十一年間過じて来た自分たちの先達の過剰なまでの情熱じ自惚じ溢れた姿は新鮮だった。行事で見かねて指示するときすくい書われた。

「先生はまだつて一見ひつてねこ。」
「それで口を出したのは私の者を放か、あるいは生糸のこじら好きなのが故か。」
それから十年、あの先生方の努力と生徒自身の頑張りで、あひるの巣に巣つて充実、変貌していける始だ。この西高で過

絵を画く時、自分の好きな画家の絵を模倣せんと書かれた。模倣を通して、その画

家の物を見ゆ田中ねらいを極めたのである。これは何十枚も一人で練習からはじめて効果がある。思ひば日本松先生を始めた動きを伝へ、それを越える生徒の情熱のたまつを受けじめし、共に成長していく。

(昭和58年より10年間教鞭をとつていただき、「の春」県教育サークルセントラルに米朝ひぬれました。)

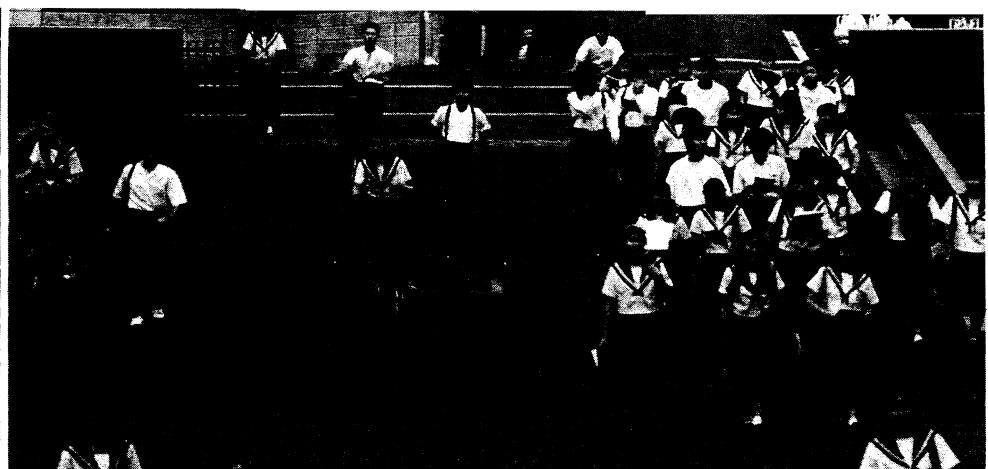
俺の人生これでいいのか!!

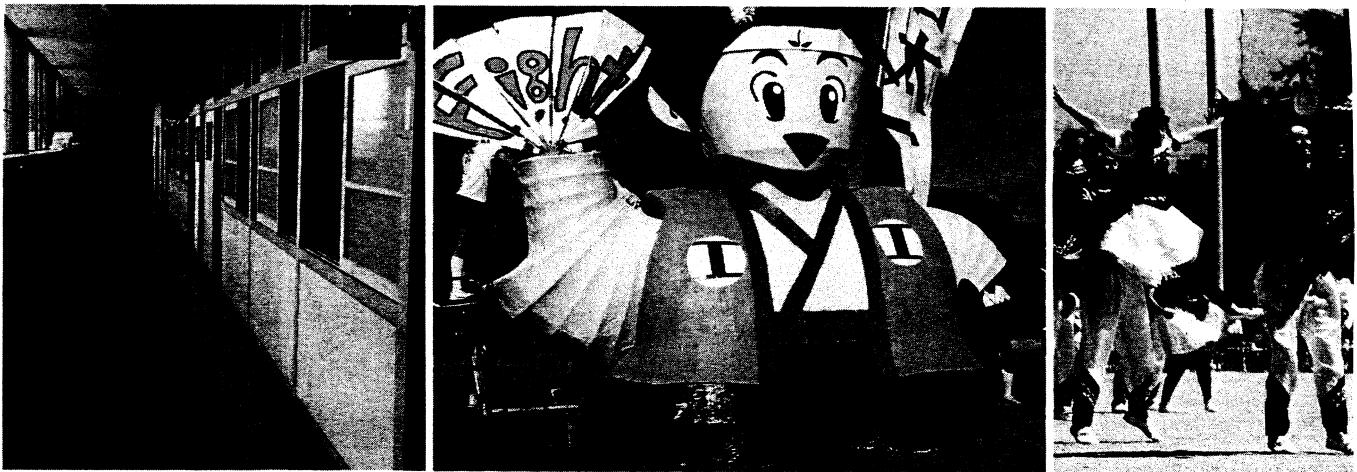
4回生 中島正勝

知人のY君が大学に合格した。Y君は芝居のプロトコローカーをしており、年は確か45歳、2人いや3人の子供もいたはずだ。

受験勉強をしてたことは知のなかつた。不思議に思い尋ねたY君の「真剣に法律を勉強したい」と云つた。

近頃の大学には、一概を悉てた者であれば社会人であつても画鋲じ論文だけで入学させる制度があるのです。Y君の恩恵





じ接かつたんじゃないのか。三人で行った場所は、事務室は省くが、だんだんすいきもやはなさうだった。本人にはかなうせまつた事情があつたのじ。

ト氏の大學生格の「コース」は少なかつて波紋を投げかけた。ト氏の周りに時ないな学習サークルを引き起した。カルチャースクールに通う者、通信教育を受けれる者。私自身も大学を除籍になり、アカデミックなものは全く無縁に廻してしまった。生活の中で学び実践してきた——と云は力づけしながら、実際は仕事ひと筋に走つてしまつた。慰めるわけではなくが、好きな仕事があつただけつかんだ。

大学と聞いてもやめのところ気分しないではない。しかし、私が時代に入った。がむしゃらに走る時代は過ぎたかもしない。今この度、自分の足歩みを見つめ直して、これまでの未を考えて見直す時期にきて、この度は、ト氏の顔を見て勞かべながら考えた。

(一高円在住 オハイヤマハラウチナキ)

ある秋の口の「J」と

14回生 竹田 繁良

西校時代、私はテニス部に所属していました。忘れられない年の秋、一高市民戦のJ。一回戦敗退の私は、友人一人(闇)といひながら、彼はテニスに対する未練捨て難く、今だに田校の西校で教鞭をひつながらのテニス部の顧問をしておるそうだ。J. Y. ワードル・ヤーの女と二人で、校舎の金庫に立つた。ひそかに口一つ言わなかったが。一高円も私も一回戦落ちて、その落胆測り知れず、お互い

の心のキズを舐めるのが何より、三人で行つてはならないかと話すくに纏あつた。そこへ応援に嫌気がさしたのが「私も運んで」と。J. UNNERTSをあげた。私たちは自分が

点になつた。金華山と言えば、かの織田信長のゆかりの地。そして女と来たじあつては、信長公も我々の事を歎羨め折じはぬかといい危惧の念に駆られたと云つてあります。然し田頃のことは見られぬ烈しく口調に、私は折れた。四人連れて「ケツ」を漕いでやつとしたじあつて着いた頃はもう秋の夕暮れ。原上からの素晴らしい眺めが開けていた。四人の口に書かれてゐるが、開けていた。四人の口に書かれてゐるが、開けていた。四人の口に書かれてゐるが、開けていた。遠距離はねばねやつて来る

よ、やつと原上へ登つた充実感からか。いや遠い。なぜなら私はローブエイドという安易な手段を使つて登つたからだ。恐いのは風が冷たい間に渾水だから涙が出てきたのだと思つた。みんなそよなだわつむじことがなせかしの無性に樂しかつた。灘尾平野に来期の健闘を誓つて、再びローブエイド下した。みんなの口から「かくや姫」の一曲が口説かれた。

(東京都在住 竹田商店経営)

田校の教壇に立つて

17回生 竹田 繁樹

私がいる田校は、一高附属高等学校の田校である西高へ転任して来ました。久しぶりに西高的校門を入ります学校の中を歩いてい

ると、十年ほど前のことが流れかかると思っていました。私は今、自分の田校である西高の教壇に立つたときの気持ちを思つていてます。

前田校で得た知識を生かし、6年前に初めて教壇に立つたときの気持ちを思つて、先生方と協力して西高の後輩達のため頑張つてこみたいと思います。

(祖父竹田在住 今年からの田校に勤務)

私は西高在学中の毎日出でこなせば、二田校の「アーチ」を校舎の裏の非常階段を出でました。私の西高在学中の毎日出でこなせば、二田校の「アーチ」を校舎の裏の非常階段を出でました。

田高祭でのアスコシで作つた応援の練習、真夏の暑い教室で受けた補習授業など、あれせきがありません。

まだ、西校に赴任して、四年ひつたのは、先生方が生徒個人の能力を最大限に引き出すために、いろいろ工夫されてい

るところです。補習授業、早朝の確認テスト、添削指導、個人面談、進路検討会など、自分が生徒であつたときには見えな

かった先生方の苦労もよくわからました。

まだ、生徒もそれに応えて一生懸命努力しておつ、田校授業後にせ、職員室のあわい

にあつた、先生に質問してくる生徒の姿が

また、生徒もそれに応えて一生懸命努力しておつ、田校授業後にせ、職員室のあわい

にあつた、先生に質問してくる生徒の姿が

学園だより

昨年度の同窓会活動報告

1、同窓会総会の開催

平成4年8月9日(日)

真清田神社参集殿にて

旧職員13、現職員8、一般会員48
計69名参加

全会一致で会則を一部改正

2、「同窓会報」第9号の発行

3、東京支部会の開催

平成4年12月12日

岩田(幸)先生、栗木先生が参加

同窓会入会式及び卒業記念品贈呈
平成5年2月27日 本校体育館にて
第27回生455名が同窓会入会。同窓会
員の総数は「一万八五〇名」。

5、30周年記念事業における準備

「創立30周年記念事業」伴つお題
「住所確認葉書」を全会員に送付

「記念事業基金」への貯蓄、同窓会
名簿の注文を案内

(12月)

大学合名簿一覧

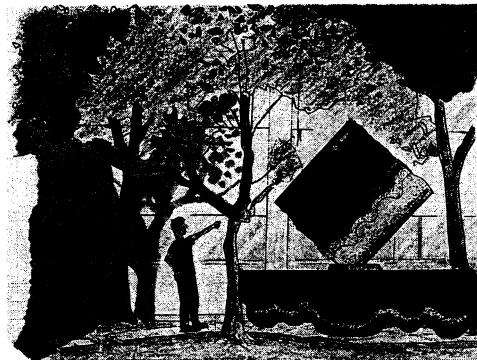
(平成5年度入試)

北海道大	1	名古屋工大	21	上智大	1	愛知大	94	名城大	73
横浜国大	3	三重大	8	慶應大	1	愛知学院大	44	同志社大	4
金沢大	9	滋賀大	6	中央大	4	愛知工大	60	立命館大	34
岐阜大	31	京都大	2	学習院大	1	淑徳大	42	関西大	12
静岡大	10	愛知県立大	11	東京理科大	3	金城大	30	その他の私大	172
名古屋大	28	名古屋市立大	9	明治大	7	堀山女子大	45	国公立大合計	230
愛知教育大	44	その他国公立大	46	早稲田大	4	南山大	59	私立大合計	693

職員の活動

(敬称略)

転出	社会	後藤 典子 (中村高校へ)
国語	日本松 素	栗木 秀己 (小牧南高校へ)
河合 麻子	理科	中村 義人 (県教育サービスセントラルへ)
セントラル	数学	栗木 秀己 (小牧南高校へ)
体育	太田 成績 (木曾川高校へ)	事務長
国語	森 留美子 (尾西高校より)	林 光政 (大山高校へ)
数学	立沢 秀樹 (尾西高校へ)	池田 博貴 (新規採用)
理科	清水 美千子 (五条高校より)	事務長
体育	太田 成績 (木曾川高校へ)	高木 繁 (愛知工業大)
轉入	社会	後藤 典子 (中村高校へ)
国語	日本松 素	栗木 秀己 (小牧南高校へ)
河合 麻子	理科	中村 義人 (県教育サービスセントラルへ)
セントラル	数学	栗木 秀己 (小牧南高校へ)
体育	太田 成績 (木曾川高校へ)	事務長
国語	森 留美子 (尾西高校より)	林 光政 (大山高校へ)
数学	立沢 秀樹 (尾西高校へ)	池田 博貴 (新規採用)
理科	清水 美千子 (五条高校より)	事務長
体育	太田 成績 (木曾川高校へ)	高木 繁 (愛知工業大)



27回生年度幹事

常任幹事 小澤英樹

小涼 敏弘・平野さな恵
井上 裕介・鶴岡 宏枝

小澤 英樹・春木 騨美
村田 友長・黒宮今日子

平林 康仁・松岡 桃子
小沢 健司・山内 優貴

金沼 宏仁・松本百合香
堀斐 滉雄・近田 恵里

田中征太郎・瀬戸 真美

平野 一孝・寺園美奈子

1組 2組 3組 4組 5組 6組 7組 8組 9組
10組

創立30周年記念事業の概要

1) 記念式典 平成5年11月9日(日) 一宮市民会館

2) 記念公演 名古屋市フィルハーモニー交響楽団による
オーケストラ演奏(式典後)

3) 記念誌の発行

4) 記念品の配布

5) 環境整備 中庭(本館と中館の間)

6) 同窓会名簿の発行(同窓会の事業)

同窓会では、

- a、モニターメンバー設置のための基金の募集(一口五千円)
- b、同窓会名簿の注文(一冊二千五百円)
- c、同窓会名簿の広告の募集

現在受け付けています。ご協力をお願いします。

(12月)